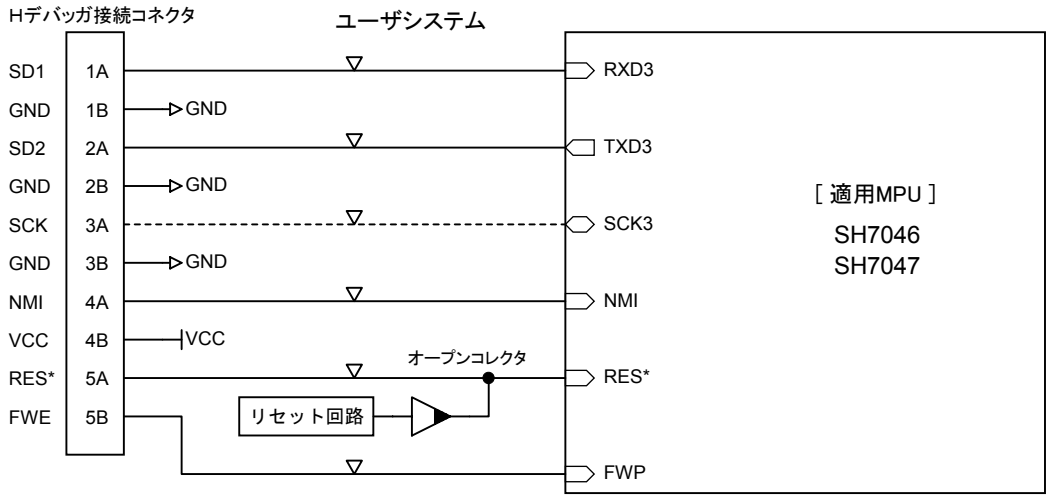
【 接続例21 】 SH7046,7047の場合（ブート接続）



1) ▽印はプルアップ抵抗です。抵抗値は4．7K～22Kの範囲を推奨します。
2) リセット回路の遅延時間は、200mSEC以下になるハードを設計して下さい。
3) SH7046の場合、RXD3(PA8) TXD3(PA9) SCK3(PA11)になります。
4) CPU動作モード（ブート・実動作）設定回路は、ユーザ（ターゲット）側で用意して下さい。
5) CPU設定でターゲットI/Fを調歩同期／クロック同期の選択ができます。
   調歩同期側に選択した場合は、SCKを開放にして下さい。